

製品安全データシート

作成: 2015/08/10

改訂: 2023/07/13

確認: 2023/07/13

1. 化学品及び会社情報

製品名	HISCL PIVKA-II キャリブレータ
[構成品名]	[HISCL PIVKA-II C0、HISCL PIVKA-II C1、HISCL PIVKA-II C2、HISCL PIVKA-II C3、HISCL PIVKA-II C4、HISCL PIVKA-II C5]
供給者の会社名称、住所及び電話番号	シスメックス株式会社 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 シスメックス株式会社 テクノパーク 〒651-2271 神戸市西区高塚台4丁目4番地の4
緊急連絡電話番号	TEL: (078)991-1911(代表) FAX: (078)991-1917
推奨用途	臨床検査測定用
使用上の制限	推奨用途以外への使用は禁止する

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的危険性	区分に該当しない
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分 4
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
皮膚感作性	区分 1
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期(急性)	区分 2

GHS ラベル要素

危険有害性を表す絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H302 飲み込むと有害

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

H318 重篤な眼の損傷

H401 水生生物に毒性

注意書き

<p>安全対策</p>	<p>P261 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレアの吸引を避けること。</p> <p>P264 取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。</p> <p>P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。</p> <p>P280 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。</p> <p>P273 環境への放出を避けること。</p>
<p>応急措置</p>	<p>P301+P312 飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。</p> <p>P302+P352 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。</p> <p>P305+P351+P338 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>P310 直ちに医師に連絡すること。</p> <p>P330 口をすすぐこと。</p> <p>P333+P313 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。</p> <p>P361+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。</p>
<p>保管 廃棄</p>	<p>P403 換気の良い場所で保管すること。</p> <p>P501 内容物、容器を国、都道府県又は市町村の規制に従って廃棄すること。</p>
<p>他の危険有害性</p>	<p>粉じん爆発危険性：拡散した場合、爆発可能性のある粉じん－空気混合物を形成する可能性あり。</p> <p>微粒子の粉状物質を長期間にわたって多量に吸入した場合、肺障害（じん肺の諸症状）を引き起こすことが知られている。</p>
<p>GHS分類に該当しない危険有害性</p>	<p>本品にはヒト由来成分を含んでいます。原料は、HBs 抗原、HBV DNA、HCV RNA、HIV-1/2 抗体の検査を行い、陰性の結果を得ていますが、感染の危険性を完全に否定できる検査法がありません。また、それ以外のウイルスに関する検査はしていません。感染の危険性があるものとして、検体と同様に十分注意して取り扱いください。</p>

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物 (凍結乾燥粉末)
危険有害成分	
化学名又は一般名 濃度(範囲):	1, 2-ベンゾチアゾリン-3-オン 6.15%
CAS番号	2634-33-5
労働安全衛生法 官報公示整理番号	該当しない
化管法管理番号	該当しない
毒物・劇物の別	該当しない
化学名又は一般名 濃度(範囲)	エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム塩 9.15%
CAS番号	6381-92-6
労働安全衛生法 官報公示整理番号	該当しない
化管法管理番号	595
毒物・劇物の別	該当しない
GHS 分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診察、手当てを受けること。 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
眼に入った場合	直ちに医師に連絡すること。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲込んだ場合	飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。 口をすすぐこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候 症状	情報なし
応急措置をする者の保護	情報なし
医師に対する特別な注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。 粉じんが発生している時は乾燥砂を用いる。
使ってはならない消火剤	棒状注水。
火災時の特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

特有の消火方法

拡散した場合、爆発可能性のある粉じん-空気混合物を形成する可能性あり。

消火作業は、風上から行う。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスクなど）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

作業には、必ず保護具（手袋・眼鏡・マスクなど）を着用する。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉末の場合は、電気掃除機（真空クリーナー）、ほうきなどを使用して回収する。

粉塵が飛散しないようにして取り除く。

微粉末の場合は、機器類を防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

滑って転倒する事故を引き起こす可能性があるため、製品の拡散を避ける。

漏出物の上をむやみに歩かない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

空気中の濃度をばく露限度以下に保つために、防爆型の換気装置にて換気を行うこと。

安全取扱注意事項

環境への放出を避けること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

保護眼鏡、保護面を着用すること。

接触回避	汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
衛生対策	粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
保管	粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
安全な保管条件	容器を接地すること。アースをとること。
安全な容器包装材料	火花を発生させない工具を用いること。
	静電気放電に対する予防措置を講ずること。
	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。
	粉じんの拡散を防止すること。
	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	取扱い後はよく手を洗うこと。
	換気の良い場所で保管すること。
	情報なし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	TWA 10 mg/m ³ , STEL -
設備対策	取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
	機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
	蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。
	静電気放電に対する予防措置を講ずること。
	密閉する設備又は局所排気装置を設置する。
	防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。
保護具	
呼吸用保護具	必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具	保護眼鏡、保護面を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて、適切な保護衣を着用すること。
特別な注意事項	なし

9. 物理的及び化学的性質

物理的性状	
物理状態	固体（粉末）
色	白色～淡褐色
臭い	無臭
融点・凝固点	データなし
沸点又は初溜点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に易溶
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	約 1.0
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ(放射性、かさ密度、燃焼持続性)	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性:	通常の取扱いでは安定。試薬としての安定性は添付文書をお読みください。
危険有害反応可能性	粉じんが空気と混合すると、粉じん爆発の可能性がある。
避けるべき条件	火花、裸火、静電気。
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	経口 分類結果は区分 4 に該当。 経皮 データ不足のため分類できない。 吸入 （急性毒性（吸入：気体） GHS 定義による気体ではない。 （急性毒性（吸入：蒸気） データ不足のため分類できない。 （急性毒性（吸入：粉じん、ミスト） データ不足のため分類できない。
------	---

皮膚腐食性／刺激性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないが毒性未知成分が濃度限界以上なので分類できない。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	眼区分 1 の成分合計が濃度限界 (3%) 以上のため、区分 1 に該当。
呼吸器感受性	データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	皮膚感受性区分 1 の成分が 1% 以上のため、区分 1 に該当。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	(生殖毒性) データ不足のため分類できない。 (生殖毒性・授乳影響)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため分類できない。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	(毒性乗率×10×区分 1)+区分 2 が濃度限界 (25%) 以上のため、区分 2 に該当。
水生環境有害性 長期(慢性)	分類結果は区分に該当しないが、毒性未知成分を含有するため分類できない。
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	データ不足のため分類できない。
他の有害影響	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則

国際航空機輸送協会危険物規則
(ICAO/IATA) 非危険物

国際海上危険物規則 非危険物

海洋汚染物質 非該当

MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードに
よるばら積み輸送される液体物質 非該当

国内規制

海上規制情報 非危険物

航空規制情報 非危険物

陸上規制情報 非該当

輸送の特定の安全対策及び条件 輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを
確かめる。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐
食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確
実に行う。
重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号 なし

15. 適用法令

適用法令

薬機法 体外診断用医薬品

労働安全衛生法 非該当

PRTR 法 該当

第 1 種指定化学物質（法第 2 条第 2 項、施行令第
1 条別表第 1）（エチレンジアミン四酢酸二ナト
リウム塩）

毒物及び劇物取締法 非該当

化審法 該当

優先評価化学物質（エチレンジアミン四酢酸二ナ
トリウム塩）

消防法 非該当

大気汚染防止法 非該当

水質汚濁防止法 非該当

水道法 非該当

下水道法 非該当

海洋汚染防止法 非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 非該当

16. その他の情報

一般的注意 ここに記載された情報は、シスメックス株式会社の

その他の情報

最善の見地に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行ってください。

略語、頭文字の意味/凡例

本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。

データの主要な文献参照と出典

PRTR 法: 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

NITE GHS 分類公表データ

EU CLP Regulation, Annex VI
